

- 《履修上の留意事項》1. 学生の都合を考慮しながら一部集中講義で実施することもある。
2. 学内での演習の他に、地域の事業運営のために学外での演習を伴うこともある。

《担当者名》大原 裕介 (客員) ohara@yu-yu.or.jp

【概要】

本科目は、地域における高齢や障害、病気や生活困窮など、自分とは異なる経験や暮らしをする人に対する自分の正義や価値観を養うグループワークを実施する。これらの力をベースに地域における実践的な思考や手法を養うため、地域に足を運び、ニーズを適切かつ俯瞰的に把握するための調査演習や把握されたニーズをもとに、事業構想をしていくための演習を実施する。

また、構想を実現可能な事業として展開していくために社会資源の活用を学び、履修生自らの事業運営及び事業の成果報告プレゼンテーションを行う。

【学修目標】

1. 専門職としてベースとなる正義や価値観について学びを深める。
2. 当事者の行動理由や背景を推測し、多様性を理解するとともに、こういったニーズがあるか調査し把握することができる。
3. 地域のニーズに基づき、新たな社会資源を開発するための様々な思考や手法（協働的な実践視点等）を身につけることができる。
4. 事業構想から事業計画を作成し、実際に事業を運営する上での必要な手法を身につけることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	本授業のねらいについて共有する。 主体的にグループを構築する。	大原
2	地域共生社会の政策理解	わが国における地域共生社会の実現に関する政策について理解する。 政策から地域において必要な支援を想像する(考える)力を養う。	大原
3	多様性の理解 (グループワーク)	架空のテーマでグループワークを実施する。 グループワークメンバーとのディスカッションを通じて、相手との人生経験等の違いの重要性を理解し、他者との違いを多様性として理解する力を養う。	大原
4	地域における多様性の理解 (グループワーク)	実際の複合的なニーズを抱えるケースを通じて、高齢や障害、病気や生活困窮等の暮らしについて理解し、それらの人に対する正義と価値観を改めて養う。	大原
5	ファシリテーション技術の基礎的な理解	ファシリテーションの手法を学ぶ。 ファシリテーションの重要性を理解できる。	大原
6	ファシリテーション演習 (グループワーク)	実際にファシリテーションを行う。 合意形成や意思決定を効果的かつ効率的に行うための準備・運営ができる。	大原
7	着目すべき地域のニーズの基礎的な理解 (グループワーク)	簡易な架空のテーマをもとに潜在的なニーズに着目するなど必要な視点を養う。	大原
8	地域ニーズの調査演習.1 (適切かつ俯瞰的な地域ニーズ調査の手法)	ワークシートを用いて架空のテーマをもとに擬似的な演習を通じて、適切かつ俯瞰的に地域のニーズを把握することができる調査の視点や手法を養う。	大原
9	地域ニーズ調査演習.2 (ニーズと向き合う調査)	実際に地域における調査を実施する。 現実に起こる地域のニーズを適切に把握する力を養う。	大原
10	地域ニーズ調査演習.3 (調査からニーズを俯瞰的に把握する)	調査した結果をもとに、ニーズを適切に把握する演習を行う。 現実に起こる地域のニーズを俯瞰的に把握する力を養う。	大原

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	地域ニーズ調査演習.4 (調査からニーズを俯瞰的に把握する)	調査した結果をもとに、ニーズを適切に把握する演習を行う。 現実起こる地域のニーズを俯瞰的に把握する力を養う。	大原
12	事業構想作成演習. -1 (グループワーク)	調査により把握したニーズをもとに、事業構想を作成する。 必要とされるサービスを生み出す発想と視点を養う。	大原
13	事業構想作成演習. -2 (グループワーク)	必要とされるサービスを設計する構想図を作成する。 必要とされるサービスを実現可能なものではなくとも、想像しデザインする力を養う。	大原
14	事業構想作成演習. -3 (グループワーク)	想像された構想(事象)をプレゼンテーションする手法に関する演習を行う。 相手に伝えることの重要性和困難を理解することができる。	大原
15	事業構想プレゼンテーション (中間プレゼンテーション)	事業構想のプレゼンテーションの実施。 プレゼンテーションの経験を体験 プレゼンテーションに対する様々な意見を行動に移すことができる力を養う。	大原
16	事業構想作成演習. -1 (グループワーク)	プレゼンテーションから得られた助言や指導をもとに事業構想をブラッシュアップする。 様々な意見を自らの事業構想に前向きな変換ができる力を養う。	大原
17	事業構想作成演習. -2 (グループワーク)	プレゼンテーションから得られた助言や指導をもとに事業構想をブラッシュアップする。 社会資源を開発し運営する視点を養う。	大原
18	実践家による社会資源開発に着目した講義.1	社会資源開発に着目した講義を行う。 作成した事業構想に新たな視点を加えることができる。	大原
19	実践家による社会資源開発に着目した講義.2	社会資源開発に着目した講義を行う。 作成した事業構想に運営するために必要な思考や視点を加えることができる。	大原
20	事業計画作成演習.1 (グループワーク)	事業構想を実際に事業運営するための手法を加えた事業計画作成するグループワークを行う。 経営的な視点やマネジメントの手法など学び、事業計画作成する力を養う。	大原
21	事業計画作成演習.2 (グループワーク)	事業構想を実際に事業運営するための手法を加えた事業計画作成するグループワークを行う。 経営的な視点やマネジメントの手法など学び、事業計画作成する力を養う。	大原
22	事業計画作成演習.3 (グループワーク)	事業構想を実際に事業運営するための手法を加えた事業計画作成するグループワークを行う。 経営的な視点やマネジメントの手法など学び、事業計画作成する力を養う。	大原
23	事業運営演習.1	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原
24	事業運営演習.2	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
25	事業運営演習.3	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原
26	事業運営演習.4	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原
27	事業運営演習.5	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原
28	事業運営演習.6	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原
29	事業運営演習.7	事業計画をもとに事業を運営する演習を行う。 協同的実践の視点や手法を学びとることができる。 必要とされているニーズを改めて把握することができる。 さまざまな困難や失敗体験を必要な経験として理解し行動に移すことができる。	大原
30	事業成果報告・まとめ (プレゼンテーション)	各グループの事業成果のプレゼンテーション 全体の振り返り	大原

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

地域における事業構想プラン（80%） 授業に参加する態度や姿勢、行動力（20%）
各グループで作成した事業構想プランを提案しそれをもって評価する。

【教科書】

ワークブックを使用する。（授業時に配付）

【備考】

基本的に少人数のグループワークで学習する。

【学修の準備】

ニーズ調査や事業構想プラン作成など事前に設定された課題について準備することがある。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4,3

【実務経験】

社会福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉法人ゆうゆうの理事長としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。